

脊椎の外傷(けが)について 脊椎損傷

整形外科部長 兼 診療放射線科部長

向山 啓二郎



脊椎のけがを脊椎損傷といいますが、よく、「事故で腰の骨を折った」とか「スポーツのけがで首の骨を折った」ということを聞いたことがある方もいません。またはそんな経験がある方もいらっしゃるかもしれませんが、以前に紹介した骨粗鬆症性の骨折も脊椎の骨折の一つですが、若く、健康な骨の人がけがをして起こる骨折は、高いところからの転落や交通事故、激しいスポーツなど極めて強い力が脊椎に加わって発生します。「高エネルギー損傷」と呼ばれ、脊椎以外の内臓のけがを合併することも少なくありません。これに対し、骨粗鬆症の骨折は骨の強さ自体に問題があるため、「病的骨折」と呼ばれます。今月は主に高エネルギー損傷で起こる脊椎損傷を紹介いたします。

脊椎は複雑な形をしていて、様々な形態の骨折を起こします。そして手や足の骨折と同じように手術が必要となることもあります。脊椎に骨

折が起こった時に問題となるのはなんとといっても脊椎の中を通っている神経(脊髄や、馬尾といわれる神経)の損傷が同時に起こり、悪くするとずっと続く麻痺を起してしまう可能性があります。脊椎の中の脊髄に損傷が起こった時はこれを脊髄損傷と呼びます。脊椎損傷と混同されやすいです。また、脊椎は体の中心で体全体を支えているので体重の負担をいつも受けています。そ

脱臼骨折



脊椎がずれてしまっている 神経が挟まれて圧迫を受ける

破裂骨折



つぶれた椎体

CT

MRI

脊髄

つぶれた骨が神経を圧迫

のため最初は大したことがない骨折に見えても、時間がたつてから正しい腰曲りになったり、遅れて麻痺を起してくることがあります。

脊椎でよく起こる骨折は椎体という部分がつぶれる圧迫骨折ですが、つぶれた椎体が神経の方へ向かって飛び出す破裂骨折、上下の脊椎がず

れてしまう脱臼骨折、脊椎が上下2つに分かれてしまう Chance 骨折と呼ばれる骨折など実に多くの形の骨折があります。

脊椎のけがが疑われる症状である場合、普通のレントゲン写真以外にも CT や MRI などの精密検査を行います。通常のレントゲン写真ではわからなかった骨折や脊椎の骨の周りの靭帯の損傷や椎間板の損傷などがよりわかりやすくなります。これらの検査を参考に、骨折の形が不安定でないか、脊椎を支えている靭帯や椎間板に損傷はないか、神経がやられている症状はないかを総合的に判断し、手術をするべきか、しなくてもよいかを決定していきます。一度起こると重い症状が出てしまうこともある骨折です。事故を起こさないように安全第一で作業にあたる、運転する、スポーツするよう心がけましょう。